

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名 城東区
学校名 鳴野小学校
学校長名 崎本 靖朋

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・鳴野小学校では、第6学年 81名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- 平均正答率において国語は3ポイント、算数は2ポイント、理科は4ポイント、大阪市平均を上回った。また、3教科ともに全国平均も上回る好結果となっている。
- 平均無回答率は算数が大阪市平均と同等であったが、3教科ともに全国平均より低く、特に国語と理科の無回答率は大阪市平均を大きく下回っている。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」または「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」との質問において肯定的な回答をした児童の割合が、大阪市・全国の平均を上回っている。その他にも、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問において肯定的な回答が、大阪市・全国平均を大きく上回っている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域において大阪市平均・全国平均を上回った。「情報の扱い方に関する事項」は全国平均から0.3ポイント下回ったものの、大阪市平均を上回っている。日々の実践の成果が結果として表れた。今後も、基礎基本の内容を確実に習得できるように丁寧に指導を重ねていきたい。

[算数]

- 「図形」を除く全ての領域で大阪市平均・全国平均を大きく上回った。「図形」については、一昨年度も最も低かったこともあり、再度、作図の仕方や図形の性質・角の概念の理解、面積の求め方といった内容を重点的に補習していく必要がある。

[理科]

- 全ての領域において大阪市平均・全国平均を上回る結果となった。特に、『「エネルギー」を柱とする領域』や『「地球」を柱とする領域』では、大阪市平均より5ポイント上回る好結果となった。

質問調査より

- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目で肯定的な回答をした児童の割合は、98.6%で、大阪市平均や全国平均と比較しても高い結果となった。安全安心な学校の基盤となる内容だけに、今後もいじめ対策等に校内を挙げて取り組んでいきたい。
- 「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか」で肯定的な回答をした児童の割合は、87.7%であり、大阪市平均や全国平均よりも11ポイントも上回る好結果となった。実際に昨年度の学習発表会で児童一人一人が作成したスライドを使って発表したこともあり、着実にICTスキルに自信を持っていることが伺われる。
- 学習に関する項目にて肯定的な回答の割合が高く、特に理科については、「勉強が得意ですか」「勉強は好きですか」「授業の内容はよくわかりますか」などの全項目で大阪市平均や全国平均を上回る好結果だった。近年理科専科による学習を進めてきた成果が学力調査だけでなく、児童の意識にも顕著に表れている。

今後の取組(アクションプラン)

- 国語では、「情報の扱い方に関する事項」の領域について、「ふりかえりプリント」等を活用しながら、普段の学習の中でも意識的に改善するように指導していく。また図書館開放や学校司書による読書推進などを継続して行い、授業や宿題での音読の取り組みも合わせて、読解力の基礎基本を育成する。
- 算数では、本年度も研究教科として取り組んでいることから、算数の基礎・基本の定着を図るための授業展開を工夫し、指導していく。特に、今回課題として挙がった「図形」領域においては学習者用端末を活用し、デジタルドリル等により児童の個々の実態に応じた視覚的な理解を促進し、反復して学習できるように指導していく。
- 理科では、現在の好結果や肯定的な意識の高さを今後も維持できるように日々の学習を大切に指導していく。さらに、他の学年においても同様の傾向を広げられるように、指導方法・教材を教職員間で共有しながら、理科の学習を推進していく。
- 自主学習ノートの取り組みを継続し、自ら学ぶ意欲の向上を図るとともに、日々の授業で習得した知識への興味関心を高められるようにする。

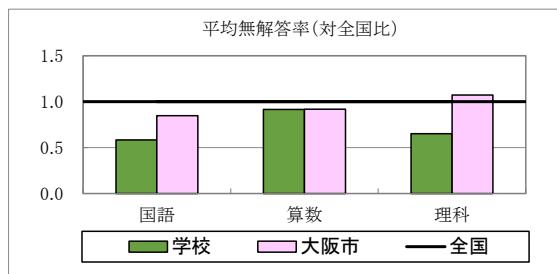
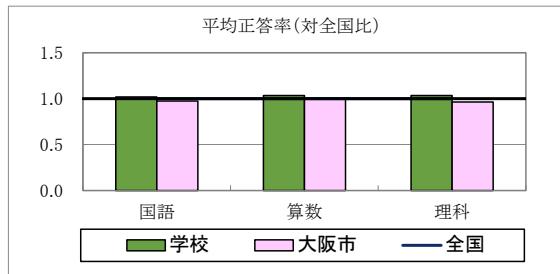
【 全体の概要 】

平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	68	60	59
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	1.9	3.3	1.8
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

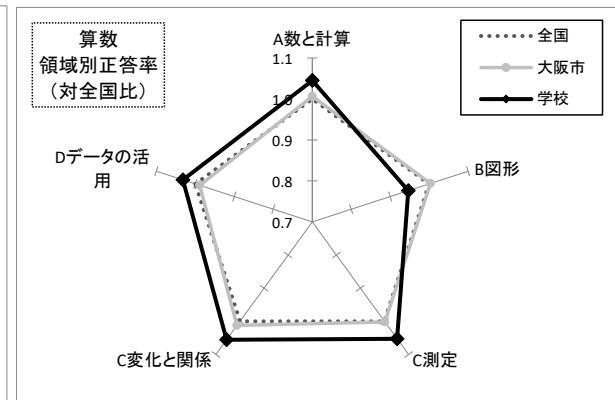
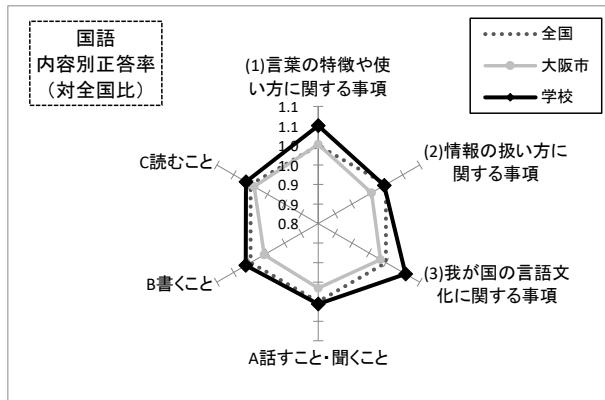
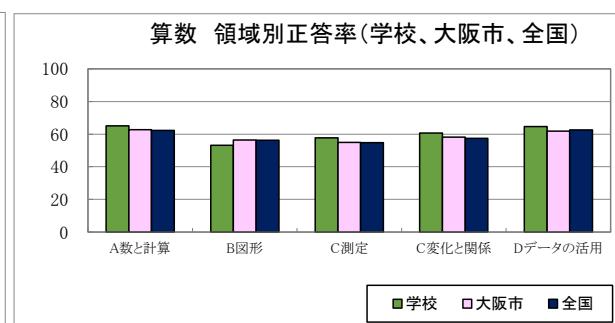
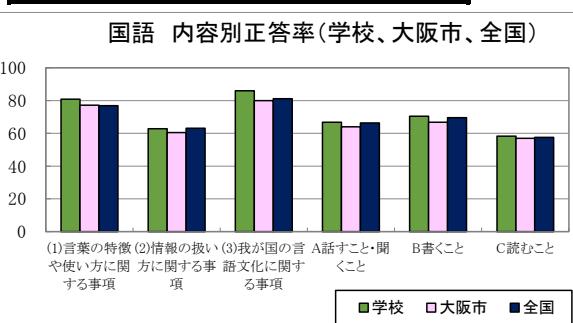


【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	80.8	77.1	76.9
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	62.8	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	85.9	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	66.7	64.0	66.3
B 書くこと	3	70.5	66.7	69.5
C 読むこと	4	58.3	56.9	57.5

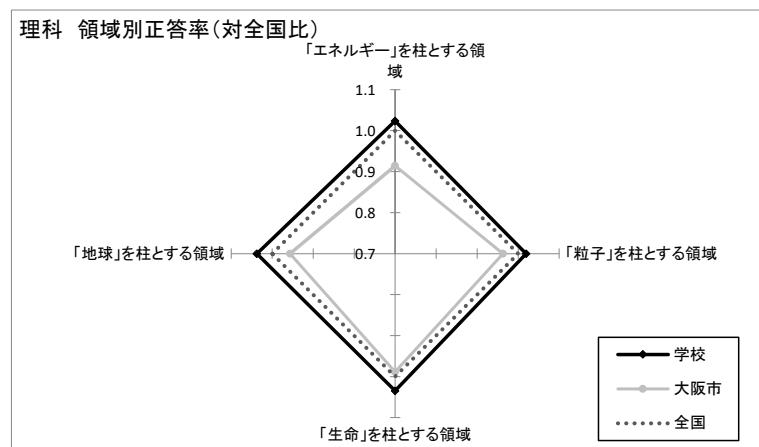
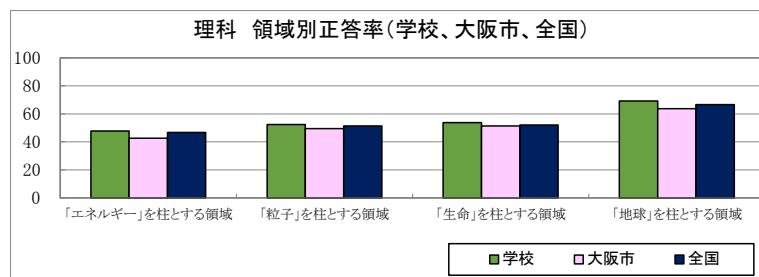
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	65.1	62.7	62.3
B 図形	4	53.2	56.4	56.2
C 測定	2	57.7	54.9	54.8
C 変化と関係	3	60.7	58.2	57.5
D データの活用	5	64.6	61.9	62.6



【 理科 】

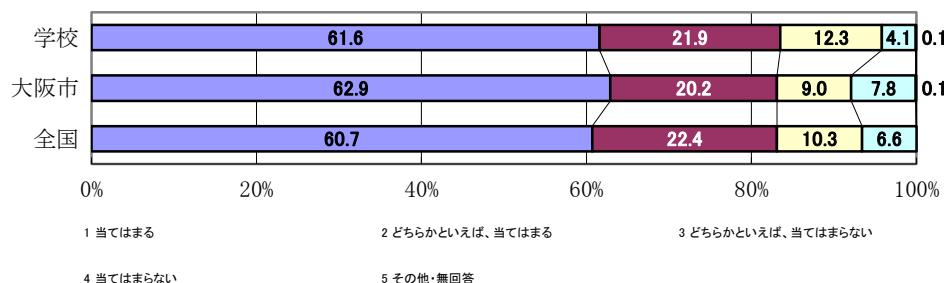
学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	47.8	42.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	52.4	49.5
B 区分	「生命」を 柱とする領域	4	53.8	51.4
	「地球」を 柱とする領域	6	69.2	63.8



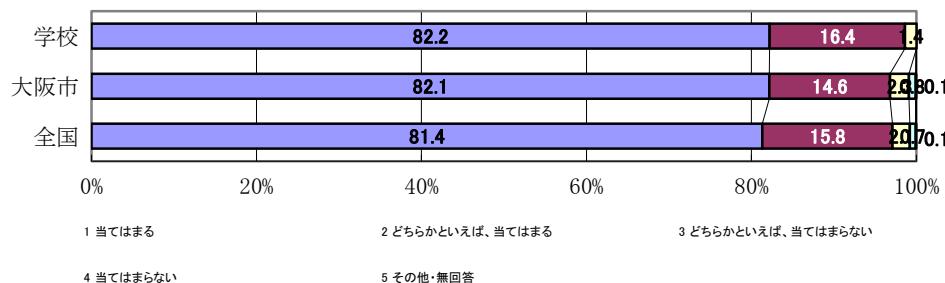
児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

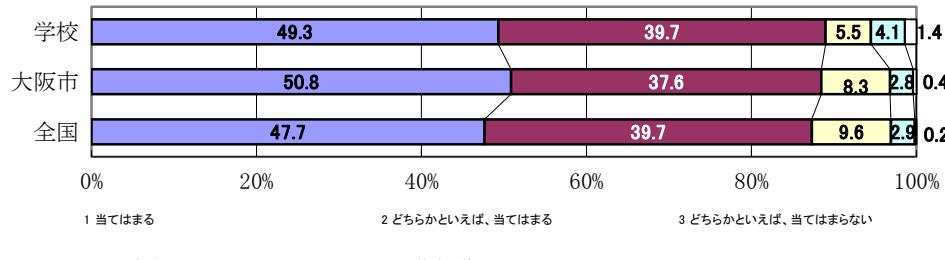
質問番号
質問事項
7
将来の夢や目標を持っていませんか



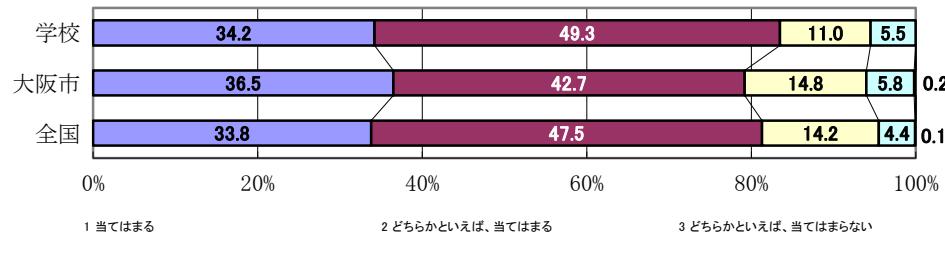
9
いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



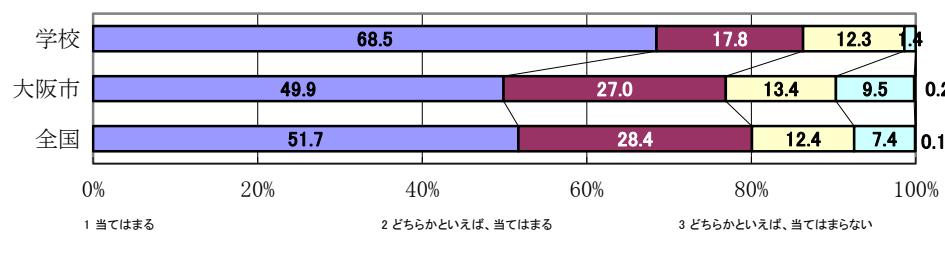
38
先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか



27
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



61
理科の勉強は好きですか



学校質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

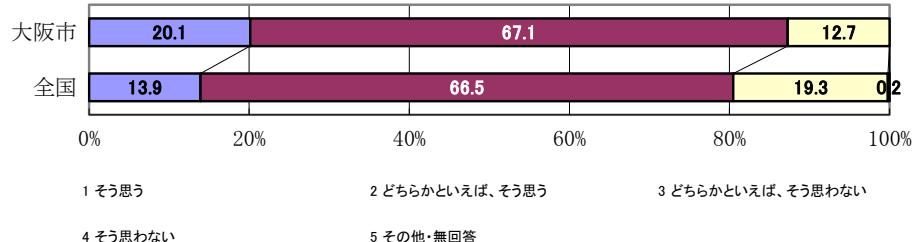
質問番号

質問事項

26

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

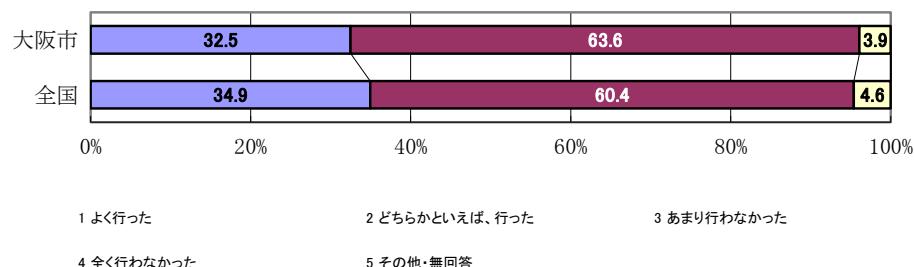
学校 「そう思う」を選択



31

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

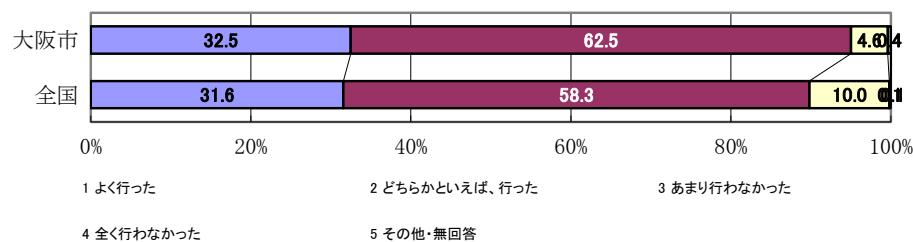
学校 「よく行った」を選択



32

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

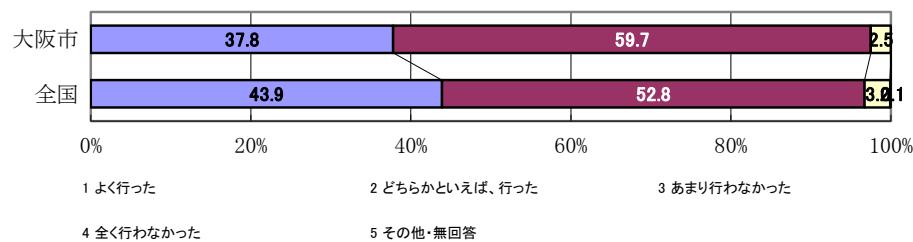
学校 「よく行った」を選択



51

調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度までに、問題に対して、既習の内容や生活経験を基に、予想や仮説を発想することができるような指導を行いましたか

学校 「よく行った」を選択



52

調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行いましたか

学校 「よく行った」を選択

